

ロイヤルホテルで行われた。

海外を含め遠方からの参加者も多く四十八人が出席した。また、恩師の生駒節子先生・森口侃先生・青木弘先生に出席いただき華を添えて下さった。記念講演として、同期の町田勝彦さん（シャープ会長）の「省エネ・創エネで生活が変わる」を拝聴した後、懇親会に移る。

遠来者や初参加者をはじめ多くの友の近況や抱負についてのスピーチがある。私達も前期高齢者の仲間入りをしたとはいえ、皆んな元気で積極的に人生向き合っていることが窺え共感するところが多かった。また、板橋（ピアノ）・新村（二胡）・小山（キーボード）さんによる演奏があり一層盛り上がる。さらに伴奏を得て全員で「ふるさと」を歌う。このように三年ぶりの同窓会は大いに賑やかで楽しく経過し、次回の再会を約して散会した。なお、三年前の同窓会の後、今井元次・露原正行・坂井義隆さんが逝去された。ご冥福を祈ります。

14期 六本 順子

五月三十日同窓会開きました

昨年の同窓会紙で、「同窓会開きませんか」と呼びかけましたところ、実現の運びとなりました。今年の同窓会紙が届くころには、もう終わっているはずですが、遷都千三百年祭で賑わう奈良での開催です。十四期四十

三名の参加申し込みがあり、小豆島タツ子先生、藤川宣雄先生、黒田進先生が参加してくださいます。住所不明で戻ってきた通知もありますが、返信ハガキの近況報告欄に詳しくメッセージを書いてくださった人が多く嬉しくなりました。ただ、お返事をいただく前に白神先生が亡くなられたとお聞きし、とても残念です。

当日はゆつくり時間をとって、お寿司コーナーと天麩羅コーナーでお喋りしながら並んで楽しむ形式にしました。たつぷり会話をした後、うたごえ喫茶を再現します。若いころ流行った歌と校歌をみんなでおもいっきり歌うつもりです。今回参加できなかった友人のためにも次回幹事を決めて、せっかく再開した同窓会を続けていきましょう。

15期 松本 裕典

我が三回目の成人式

（還暦記念同窓会）

この世に生れて早六十年。真理を求めて学び、理想を仰ぎ励み、希望に燃え附中を飛立った若造達も約四十五年の年月の経過の間には、人生数々の功名と挫折を味わいながら年輪を積み重ね、まだまだ若い！と叫びつつも皆さん今や立派な還暦のおっちゃん、おばちゃんになった。

十五期生はこの還暦を機会に去る平成二十一年六月十四日（日）に還暦記念同窓会を開催し

ました。午前中に母校を訪問し、吉野谷副校長、井寄主幹教諭より附中現況についてお話を聞きますとともに校内の体育館、音楽室、運動場など、その変遷ぶりを懐かしく見学した。また還暦記念としてテント一張を寄贈した。

午後からは市内のホテルにて同窓会を開催し、六名の恩師にご来賓頂くとともに五十八名の同窓生が全国津々浦々から集りました。還暦につき、何か赤い物を付けて参加することになっていたので赤帽、赤チーフ、赤スカート等々思い思いの志向で皆で楽しんだ。



物故者への黙祷、瀬戸川先生ご発声の乾杯で始った宴会もアルコールが入るにしたがってワイワイガヤガヤとあっちこちで思い出話に花が咲き、笑い声が満ち溢れ、附中卒業以来四十五年ぶりに再会する者もあり、

お互いの再会を喜び合った。また当日は我が十五期の『なんでもコレクター』の桂理君と浅井憲治君の両名の発案で「附



中四十五年の年月」(Before After)という催しを行った。現役時代の夏の高野山林間学舎、冬の耐寒訓練などの歩き走ったコースを二人で現地まで訪ねて頂き、その今昔の比較の姿もスクリーンに投映して頂きましたが、特に母校付近の風景の変貌ぶりには本当に懐かしい思いであった。「懐かしいなあー」、「どないしてたん！」、「もう孫もいてんねん」等々…。楽しい会話は止めどもなく続いたが、予定していた時間はあつという間に経過し、最後は全員で記念撮影、校歌斉唱し一次会のお開きとなった。

引き続き同ホテルの別室にて有志による二次会が開催されましたが「待ってました」とばかりに一次会とは別人のような強者達が続出。我先に我先にとマイクの奪い合い、どこで鍛えたのか？十五期のエンターテイナー達は男女和気藹々の中、ホテルより見える大阪城のロマンチックなライトアップ姿をバックに身振り手振りで美声を競う二次会を大いに盛上げ皆をしつかり楽しませてくれ、命の洗濯をして頂いたような気分であった。

本会の開催に際し、恩師の藤川先生より出席者全員に先生手作りの「ぐい飲み」を還暦の記念品として頂戴した。本当に真心のこもった記念品でありがたく頂戴した。また、当日は写真班としてご協力頂きました角谷、小林、千田の各君には厚くお礼

申し上げます。最後になりましたが、準備段階より何かとお世話頂きました幹事団の皆さんには改めて感謝申し上げます。

18期 稲垣 千果夫

くれぐれもご自愛を！

十八期生のみなさん、お元気でしようか？早いもので我々も来年には還暦を迎える年齢になりました。どうかお体はくぐれもご自愛ください。と言うのも、昨年の夏前に林勝秀君が脳出血で倒れ、昨年末には酒井和子さんがくも膜下出血で倒れました。それまでは大変元気があったお二人だけに、驚いた方も多かったと思います。幸いお二人とも一命は取りとめられました。特に林君には強い後遺症が残り、現在も懸命にリハビリを続けられています。林君には糖尿病が、酒井さんには脳動脈瘤が背景にあったようですが、運良く元気でいるその他の同期生にとっても決して人ごとではありませんので、あえて健康維持のための五カ条を提言します。①自分だけは大丈夫などとは思わない。そんなことは絶対にはあり得ない。②定期的に健康診断を受ける。いくら多忙でも、そのくらの時間は取れるはず。③医者言うことは素直に聞く。同期生には優秀なドクター陣が揃っているの、何かの時には気軽に相談しましょう。④出来れば禁酒・禁煙を実行す

る。無理ならばせめて減酒・節煙を。⑤日々、無理のない適度な運動を心がける。可能ならぜひ犬を飼いましょう。毎日散歩に誘ってください。

二年後には同期会(十八会)がおそらく開催されます。そのときには多くのみなさんと元気で再会できることを切に願ってやみません！

21期 名倉 嘉史

私たちの進歩と調和

卒業したのが大阪万博の年でしたから、今年でちょうど四十年になります。

ロンドンに在住の楠本知世さんが大阪に出張で来られるとの知らせがあり、取り急ぎの範囲で声をかけて、五月十四日にあべのアポロ「楓林閣」に十八人(男十二人、女七人)が集まりました。楠本さんはじめ卒業後四十年ぶりにお目にかかる人もあったものの、たちまち打ち解けて楽しいタイムスリップのひとときを過ごしました。楠本さんは「男子は髪が薄くなっている人のほうが、丸坊主だった中学生のときのイメージとブレないのでよく分かった」とか、言っていました。それは誰のことでしょうか。一昨年のようなきちんとした同期会も是非また開催したいと思っています。その際は、ご協力・ご参加をよろしく願います。



楽しいお知らせなど、急ぎの連絡とかがしやすいうちに、メールアドレスをお持ちの方は名倉までお知らせいただければ幸いです(送信の際には原則としてBCCで送らせてもらっています)。以下のアドレスにご連絡下さい。
naguchan@gold.ocn.ne.jp

23期 四本 英夫

ティファールで朝食を

昭和五十五年四月に就職して、この三月でちょうど三十年経過しました。サラリーマン双六も終盤に入つてあと数年で上がり：と思つていた矢先、昨年の四月より東京へ単身赴任することになりました。期限は、最長停年まで、いや、ひよつとしたら停年延長されるかも。読者の中には単身赴任の達人もいらつしやると思います。僭越ではありますが、これから単身赴任される方に参考にして頂きたく、「単身赴任一年生のミニ奮闘記」を雑文にまとめたと思います。

一、住居 オフィスまで地下鉄を乗り継いで、ドアトゥドアで約四分の庶民的な街に1Kのマンションを見つけました。東京は、学生時代を含め約十年間住んでいましたし、またその後の出張でも来ていることから多少土地勘があるつもりでしたが、この数年ですっかり様変わり。地下鉄でわかるのは、通勤に利用している路線と昔からある銀座線・丸ノ内線位です。ただご承知の通り、定期券と一体化したパスモやスイカを利用すれば一々切符を買う手間が省け便利です。住居についてのポイントは、場所というより、通勤時間でしょうか。短い方が良いですが、あまり近いとオンとオフの区別が難しいかも。

二、生活 単身赴任で最も懸念していたのは、食生活です。好き嫌いはありませんが、結局食事は手軽な外食になり、また栄養も偏りがちになるので、休日は内食するよう心がけています。また包丁を使うことは、ボケ防止にも効果的です。なお重宝している生活道具(調理道具)のベストスリーは、

- ①ティファール(電気です湯沸かし器、沸けば自動的にスイッチがオフに)
- ②電子レンジ用タジン鍋(モロッコから来た鍋、水を使わず野菜や肉に火を通せます)
- ③ご飯冷凍用プラスチックケース(炊き立てのご飯を入れて冷凍し、電子レンジでおいしく解凍できます)

また新聞と一緒に入るスーパーの広告はよくチェックし、買いたい物に生かしています。たった数円でも安く買うと嬉しくなる一方で、外食で一万円位簡単に使ってしまうこともあり、自己矛盾を起こしています。

三、失敗事例 出勤前の朝の七時半頃にゴキブリ対策でバルサンを部屋で炊いたら、火災報知器を鳴らしてしまいました。フロア中に大きな音が鳴り響いているのですが、不思議なことに誰一人部屋から出てきません。これが、隣の住人についても無関心な東京のマンション暮らし